

## 2022 年度目標達成状況報告書（教養学環）

\*自己評価は「S・A・B・C」の4段階で「S:十分満たしている、A:満たしている、B:概ね満たしている、C:満たしていない」

No.	評価基準		
1	年度目標	授業の質、履修者の満足度の向上および安全性への配慮	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	S
2	年度目標	学外活動の安全な運営	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	A
3	年度目標	学修支援センター（八王子・蒲田各キャンパス）との連携の推進	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	S
4	年度目標	2024 カリキュラム改編への対応	
	年度末報告	学部の自己点検 WG による点検・評価	
		自己評価	S
<p><b>【年度目標達成状況総括】</b></p> <p>授業形態がオンラインから対面に戻る移行期の中で、安全かつ円滑に教養科目の運営を行った。また解説動画を用いた授業欠席者へのサポートや、複数クラスで並行して開講されている科目での、ゲスト講師担当の授業の動画配信による同時実施など、コロナ禍でのオンライン授業実施時に習得した技術の積極的な活用により、授業の質を向上させる取り組みを行ってきた。</p> <p>学外活動については海外プログラムおよびウェルネス系科目で一部が中止になったものの、判断が難しい状況下で高い安全性を保ちつつ、十分な回数の実習を実施することが出来た。コロナ禍では体験出来なかった開放的な場所での実習は学生にとって非常に良い経験になったものと思われる。</p> <p>学修支援センターの利用者数はコロナ禍前の水準に戻りつつあり、授業担当教員と指導員との連携により、相談に訪れる学生に対して細かな指導を実現できたものと思われる。</p> <p>新カリキュラムについては、大学全体の方針において未定の部分や変更が多くあったなかで、柔軟に対応を検討しつつ、教養教育の理念など根幹についての議論を積極的に行った。今後、長期的な視点での教養科目の運営に対して、今回の議論が生きてくるものと期待できる。</p>			

### 【2022 年度目標の達成状況に関する大学評価】（自己点検評価委員会）

年度目標 4 件は概ね達成されており、自己点検・評価は適正である。コロナ禍で得たオンライン授業に関する知見を活かした全学部横断の教育の施策の検討を引き続きお願いしたい。